

令和2年度 第1回和光市協働推進懇話会 会議録

日時： 令和2年8月24日（月） 9時50分～12時00分

場所： 和光市役所6階 603会議室

委員：

学識経験者	◎粉川 一郎（武蔵大学社会学部メディア社会学科 教授） ○庄嶋 孝広（市民社会パートナーズ 代表）
市民団体を代表する者	山川 由美子（NPO 法人みんなで元気）
公共的団体を代表する者	加山 秀夫（和光市自治会連合会） 仙波 愛優佳（和光市社会福祉協議会） 片山 義久（和光市商工会）
協働推進庁内調整委員会	中川 大（政策課）
協働推進ワーキング	清水 佑輔（資産戦略課）【欠席】

◎会長 ○副会長

事務局：市民環境部部長 伊藤 市民活動推進課 野中、田中、新坂、小向、富田

傍聴者：9名

開会

【事務局】ただ今より、協働提案事業（令和元年度実施）報告会及び令和2年度第1回和光市協働推進懇話会を開会する。

1 委嘱式

【事務局】協働推進懇話会の委嘱式及び任命式は割愛させていただく。本日の流れについて説明する。はじめに、令和元年度実施の協働提案事業の報告会を行う。報告後に、質疑応答を行い、その後、今年度の協働推進懇話会の会長・副会長の選出を行う。懇話会では、「協働提案事業評価要領」に基づき、意見交換を行う。それでは、準備が整い次第、報告会を始める。

2 令和元年度実施 協働提案事業報告会について

■報告会について

令和元年度に実施した協働事業提案制度に基づく事業について、和光市協働事業提案制度実施要綱第13条に基づき、報告会を開催した。

□発表時間：30分程度（発表10分、質疑応答20分）

□発表方法：任意形式

□発表内容（パワーポイントを用いて事業報告）

事業名	団体名	担当課
多文化子育て支援事業 ～子育て通訳サポート～ 《市民提案》	特定非営利活動法人 わこう子育てネットワーク (篠田・大和田・清水)	総務人権課 (登島・高橋)

●その他留意事項（団体）

- ・サポーター養成講座の第1回（オープン講座）には、70名が参加し、多くの市民に意識づけができた。
- ・今年度も継続事業として実施している。
- ・今後の課題として、通訳対象範囲を広げる必要があると考えている。

■多文化子育て支援事業 ～子育て通訳サポート～ 質疑応答

【庄嶋委員】団体へ質問。事業の通訳件数が5件あるが、利用の具体例の説明をしていただきたい。何語と日本語の通訳であったのか。次に担当課へ質問。役所の窓口に来た、通訳を必要とされている外国人の方にどのような対応をされているか。

【団体】保育園の入園申請前に見学をし、園を選びたいというものが2件、英語で対応。1件は、通っている幼稚園での個人面談でこれは中国語。あと2件は、保育サポート課と中央子育て世代包括支援センターの持ち込みで、保育園の一時預かりのための説明の通訳と、保育園の入園説明会であった。

【総務人権課】事前に来訪がわかれば、総務人権課が依頼している多文化共生ボランティアの調整をしている。突然の場合は、職員課で把握している外国語対応ができる職員に依頼し、可能な範囲で応援に来ていただいている。

【片山委員】11月の3件は有料で、2月の2件は無料よろしいか。

【団体】その通りです。

【粉川委員】実績のある団体でそつなく事業を行われた。通訳サポーターの登録合計が42名とのことだが、サポーターの方の母国語の割合を教えて欲しい。利用者が増えなかったことについて、例えば在留資格の確認を求めるなど、要件があったのか。NPOの事業として料金をとることは必要なことだと考えるが、一方で行政が交付金を出すのであれば、利用者の負担を無しにすることはできるのかお聞きしたい。役所の窓口いらした方には無料で対応していることへの整合性はどうか。

【団体】英語サポーターの27人はすべて日本人。中国語は興味のある日本人が2名、3名が中国出身。韓国語が話せる日本人2名、4名が韓国出身。スペイン語は2人とも日本人で、1人はスペインに住んでいた。タガログ語はフィリピン出身。フランス語は日本人。申込時の在留資格の確認はしておらず、和光市民か、和光在勤かの確認のみ。

【総務人権課】利用料金の整合性はこれから検討する。今年度は同じスタイルを進めていく予定であり、団体に事業費をお支払いする。令和3年度については今後検討していく。

【粉川委員】今年度の利用状況を教えて欲しい。

【団体】緊急事態宣言が発令され、4月は市からの要請で一旦中止、5月末に解除されてからはコロナの予防対策の準備を行い、資料や申込書にも明記。8月から再開している。

【粉川委員】災害時の外国人支援がとても大切と考えている。この事業は、外国籍の方の権利保障であ

り、学校関係の通訳サポートはコロナで厳しい今だからこそ必要なツールである。協働事業であることを考えれば、団体としては引っ込み思案にならずに、今必要なところはここなのだ、という意志を持ち、行政を動かす位の意気込みを持って進んで欲しい。

【仙波委員】今後、病院での通訳サポートのニーズが高まると予想されるが、検討はしているか。転入者への案内はどうしているか。日本語を話せない親を持つ家庭へのサポートはどうしていくのか。この3点をお聞きしたい。

【団体】病院での通訳サポートは、専門用語が必要になること、利用者のプライベートに介入することにもなり、医療サポーターではないことから病院での通訳はあえてしないことに決定している。今後の案として、母子保健ケアマネジャーが子育て世代包括支援センターで母子手帳を発行する際やサポートをする時に、通訳者が同席してくれると対応がスムーズになるとの声をいただき検討している。日本語を話せない家庭には、団体としてつながっている市内で日本語教室をしている団体を紹介している。

【総務人権課】窓口では転入の手続き時、子どもがいる場合は必ず子ども関係の窓口に進み手続きをする流れになっており、チラシは必ず目に留まるようにしている。

【庄嶋委員】活動によってニーズが分かって来たのではないかと。権利の保障を考えると、料金をとるやり方は今後の行政側の課題である。市の母子保健ケアマネジャーの仕組みを使った利用者から料金をとるのは、検討が必要。他に、今後のニーズでつかめてきたものはあるか。

【団体】小さい子どものいるご家庭から習い事に通わせたいとの要望で、習い事の先生から通訳できないかとの問合せがある。

3 会長選出及び副会長指名について

【事務局】和光市協働推進懇話会設置要綱第5条に、「懇話会に会長及び副会長を置き、会長は委員の互選により選出し、副会長は委員の中から会長が指名する」とある。推薦等があったらお願いしたい。

【庄嶋委員】粉川先生を推薦する。昨年、私も委員として関わったが、会長として、会議の進行やまとめを、的確に行っていたので推薦したい。

【事務局】粉川委員を推薦する声があった。粉川委員を会長に推薦することについて、みなさんいかがか。

【一同】異議なし。

【事務局】それでは、粉川委員を会長に選出する。それでは、ご挨拶とここからの議事進行は粉川会長にお願いしたい。

【粉川会長】会長に指名された粉川と申します。よろしく申し上げます。(自己紹介) 続いて、副会長の指名について、学識経験者の庄嶋委員を推薦したい。これについて、みなさんいかがか。

【一同】異議なし

【事務局】異議なしと認め、庄嶋委員を副会長に指名する。

【庄嶋副会長】副会長に指名された庄嶋と申します。よろしく申し上げます。(自己紹介)

4 事業評価について

- 【粉川会長】次第4の事業評価について、事務局から説明をお願いしたい。
- 【事務局】協働提案事業評価要領に基づき、懇話会において評価を行う。配付している協働事業実績報告書等の資料及び本日の事業報告会の内容から、各委員は協働事業評価シートに評価を記入していただく。
- 【粉川会長】事務局の説明のとおり、先ほどの協働事業の報告をもとに第三者の立場で事業評価を行う。本日の懇話会においては、協働事業提案の報告に基づき、感想や意見交換を行う。
- 【庄嶋副会長】新しい事業を立ち上げるのは労力がかかる。また、利用料を取ることについての確認や、同意書等の書類も3カ国語分を作成する必要があった。それでも2か月遅れでスタートできたことを評価する。課題は、利用者をどう増やしていくのか。ニーズの把握も当初からの課題であり、事業をやりながら見えてきたことを今後どうつなげていくか。通訳サポーターの登録の増加は、和光市の人材発掘としてかなり成果があり評価できる。
- 【山川委員】良い取り組みである。事業提案するにあたり、市が不便に思っていたことをNPOが感じ取って取り組んだのならいろいろと事業拡大できる。学校生活のサポートだけでなく、生活面で困っている人も多いので、コロナ禍ではあるが、安全面に気を遣いつつ寄り添って欲しい。外国人の方がスタッフに加わったことは大きな強みになった。今後、市が運営していくという姿勢であれば、担当者のまとめで「初めて行う事業だったので大変だった」というコメントで締めくくることはなかったのではないかな。
- 【片山委員】サポーターを増やしていく活動を継続して進めて行って欲しい。予算の点で、市の努力もお願いしたい。
- 【中川委員】去年まで市民活動推進課におり、事務局として関わっていたので、団体や担当課の苦労は間近で見えてきた。継続していくにあたってのお願いを申し上げる。サポーターが42名の登録となり、成果がでた半面、利用者が半年間で5名であったのは低いと感じる。幼稚園・保育園の説明会が対象であるが、門戸を広げ、検討されている案を速やかに進めて行っていただきたい。市民活動ならではの情熱で市を引っ張り、団体から市に要望を出して行って欲しい。サポーターになってくださった方の活躍の場も検討して欲しい。
- 【加山委員】自治連としては子育てのための通訳サポートの支援がありがたく、進めて行って欲しい。外国の方の生活をやすくし、トラブルを無くしたいと思っている。通訳というだけでなく、外国の方の生活のサポートとなっていく面もあるだろう。自治会としても見守っていききたい。
- 【仙波委員】生活貢献の相談業務等を行っていた時に、ふじみ野市の通訳ボランティアをお願いをしていたので、和光にこういう事業ができたことを嬉しく思う。転入の際にゴミ出しルールが理解できていないなど、生活の一部にも目を向けていただければ、この方々が地域でより生活していきやすい形になっていこう。他団体との相互協力ができれば、口コミで利用者が増えていくのではないかな。発掘をすればニーズがあるため、発展して行って欲しい。利用代金が高くて、利用できない人がいるのではないかな。
- 【粉川会長】事業の趣旨や進め方について、非常に真摯に取り組み高評価である。利用者が少ないのがこの事業のウィークポイントであるが、様々な形で埋めて行き、今後も継続的に進めて行って欲しい。今回は子育て支援に特化しているが、地域のニーズに応えられるように他団体との協働など枠を広げて行って欲しい。この事業の重要性と今後の期待に高評価をいた

だいたが、その上で、改善点をお聞かせ願いたい。

- 【片山委員】登録してくださった方の活躍の場を検討して欲しい。商工会としては、店主からメニューの多言語翻訳の要請であったり、通訳サポーターという仕事やボランティアがあるという周知もできる。
- 【庄嶋副会長】仙波委員に質問。社協ではコロナでの緊急小口資金等の貸付を行っているが、外国人への窓口対応や手続きはどうしているのか。通訳のニーズをお聞きしたい。
- 【仙波委員】貸付の対応に追われている中、外国人の問合せも多い。説明は、他市の社協で翻訳した書類を共有し対応している。現状は、ふじみ野市の通訳ボランティアや、つてを頼ったり、少し話せる職員で対応している。個人情報ネックにはなるが、本人が希望されるのであれば通訳サポーターに依頼できるシステムを構築していただけるとありがたい。
- 【庄嶋副会長】子育て通訳として実施した事業であるが、コロナにより他事業でも通訳の需要が上がってきている。大田区では、コロナに対応してオンライン通訳サービスを行っている。これは、パソコンの向こうにいる通訳者を呼び出し、通訳をしてもらうというもの。多言語の通訳の需要に対応するためには、行政の力も必要になってくるだろう。
- 【粉川会長】共有しておきたいことはあるか。
- 【山川委員】地域の人たちからすると、外国人と関わることへのハードルが高いと感じる。外国人であっても和光市で子育てしやすい環境になることが必要。通訳のサポートによって外国人と関わる際のハードルが下がり、周りの理解も深まることによって、出来ることが増えていく。そういうことも視野に入れて活動して行って欲しい。
- 【粉川会長】オンラインでサポートしやすい環境になって来てはいるが、コロナにより他言語の方は心細い思いをしていると思う。もし自分がこのコロナ禍で、言葉の通じないスペインに住むことになったら、と考えると想像がつく。今回登録してくださった通訳サポーターは和光市の財産である。この方たちにも満足していただける活動を行っていただきたい。評価シートは各々が後日記入し、9月11日（金）までに事務局に提出していただきたい。メールでの提出も可。

5 令和2年度実施 協働事業提案事業について

- 【粉川会長】次第5の令和2年度実施 協働事業提案事業について、事務局から説明をお願いしたい。
- 【事務局】昨年度の協働事業提案を経て、現在1件の事業を実施している。事業名「心を込めた花で明るい街づくり」、団体名 和光おもてなし隊、担当課 秘書広報課。市民のオリピック・パラリンピックへの関心度を増進させ、和光市の活性化につなげることを目的とし、市内各学校にてプランターに花苗の植え付け作業をし、当初オリパラの時期に合計120鉢のプランターを和光市駅南口周辺に移動し、世界中の人たちをおもてなししよう、ということで進めていた。4月1日に契約をし、本来ならばたくさんの方がすでに駅前に飾られていたはずが、コロナウイルスが原因で、オリパラの延期や学校の休校などにより、当初の予定から大幅な変更を余儀なくされている。スケジュールの立て直して、冬の花を植えつけ・駅前に展示することとなった。現在、来年のオリパラへのPRと冬の本格的な展示へのテストの意味を込めて、先行して団体が植え付けた20鉢を駅前に飾っている。昨年度懇話会でご意見をいただいた「わこらぼ交換日記」が完成し、今回、この協働提案

事業で初めて完成版を使っているの、併せて報告する。

【粉川会長】事務局の説明のとおり、オリパラの延期により非常に苦勞をされているところである。事業内容の質問や、今回導入された「わこらぼ交換日記」等の意見交換を行う。

【庄嶋副会長】「わこらぼ交換日記」は、心あたたまる印象。メッセージという形で、協働する仲間同士としての相手を思いやりとりであり、画期的。オリパラ延期で戸惑うなか、プランター設置の時期を冬に変更し、夏は花プランターを20セット設置するなど柔軟な対応をされている。今後お互いのやり取りで、知恵を絞って乗り越えていって欲しい。

【中川委員】資料にある、花と子どもの写真を見て、花というものは人の心を引き付けるものだと感じた。「わこらぼ交換日記」制作については自分が主体となって携わっていたが、交換日記の特徴を考えても、デザインなどもっと親しみやすくしても良いのではないか。行政から団体へのコメントに「新型コロナウイルスと共存」とあったが、共存しながら活動を進めていくことになるかと改めて感じる。

【事務局】参考にさせていただく。

6 With コロナ、After コロナ時代の市民活動、市民活動支援について

【粉川会長】次第6のWith コロナ、After コロナ時代の市民活動、市民活動支援について、事務局から説明をお願いし、情報共有を行う。

【事務局】コロナウイルス感染拡大に伴い、団体の活動は大きく変化している。今年度の懇話会では、With コロナ、After コロナ時代の市民活動、市民活動支援について和光ならではのスタイルの提示を考えている。第1回懇話会では、今日ご出席の皆様の現状やご存じの他市の事例等について聞かせていただき、第2回・第3回とより具体的なお話をしたい。資料7を用いてわこらぼ（協働推進センター）の事例について説明する。～資料説明～

【粉川会長】事務局の報告を受けて、和光市の取り組んだ事業への質問、もしくは、この時代だからこそその提案など様々な意見交換を行う。

【庄嶋副会長】大田区でもコロナで活動が止まっている現状だが、最近になって、高齢者が参加できる外の事業としてポールウォークを実施した団体がある。ポールによって人との距離を維持できる。自分の市民活動の変化としては、総会は書面、定例会はZoomで行うなどしてきた。課題は、オンラインでの団体主催の会議や講座で公共施設を使う場合、施設の設備が整っていないこと。和光市では、施設設備の検討はされているか。

【事務局】和光市の各施設においてはまだ進んでいない状況。しかし、市役所6階の市民交流スペース（市民活動のためのスペース）にはWi-Fiがあり、これを利用して“わこらぼ”登録団体が活動している。この設備を用い、先ほど報告会にも参加したNPO法人わこう子育てネットワークと保育サポート課が協働し、8月下旬に「2020 幼児教育・保育無償化、幼稚園について オンライン説明会」を実施する予定。Zoomを使用すること。協働推進担当としては、この事業がモデルケースになると考えている。

【粉川会長】加山委員にお尋ねしたい。自治会のコロナ禍での状況で困っていることはあるか。

【加山委員】自治会連合会の理事会は細々と行っているが、行事は概ね中止。必要最低限の活動のみで、各自治会が行っていることは把握できていない。

【粉川会長】回覧版は回しているか。

- 【加山委員】 コロナの関係で回覧版を拒否する世帯があり、苦慮している自治会も少数だがある、と聞いている。
- 【粉川会長】 NPO や市民活動団体で動きが早いところは、Zoom 会議等で活動を加速させている。一報で地域に根差している自治会の活動が気にかかる。
- 【片山委員】 コロナ禍の中で災害があった場合を考えると、避難所の設営や訓練など、自治会も含めて行っていかねばならない。来年も活動がどうなるかわからない中で、組織として存続していけるか。消滅の恐れがあると感じる。
- 【仙波委員】 ボランティアセンターでは、団体が高齢者なので Zoom に適応するのは難しく、3 密を避けて活動を行い、団体にあった活動を模索している。相手の目を見ながら話せる糸電話を開発するなど、遊び心を取り入れながらやれる範囲での活動をしている。
- 【山川委員】 コロナで高齢者と会えなくなった。つながりをなくさないように月 1 回手紙を送っている。Zoom や YouTube は高齢者になじまず、ラジオ等でつながれる形を行政でも模索して欲しい。当会では、高齢者が家のなかで目的を持って生きていくために、新聞紙でゴミ袋を作る「銀色プロジェクト」を立ち上げた。スーパーのビニール袋に代わるものとして、改良し模索している。時間のある方が作って、時間のない人に使っていただく循環型を目指している。
- 【中川委員】 私の所属している自治会では回覧板は通常通り回している。また、花植えや防犯パトロール等屋外の活動は行っている。政策課としては、パブリックコメントの説明会を YouTube で配信し 800 回再生。成果を感じている。YouTube の活用は考えられるのではないかな。
- 【粉川会長】 これは重要なテーマである。委員の皆さまから良い意見を聞いた。認定特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（通称 NPO クラブ）という中間支援組織が NPO 向けに 5 月に実施したアンケートのよれば、回答団体の 89% が活動に影響を受け、68% が減収。減収割合が半分以上の団体が 46%。人件費と家賃の確保に苦労している。50% 以上の団体が規模を縮小、または存続が危うい状況とのこと。これは、危機的状況である。テクノロジーに長けている団体は活動がむしろ活発になっているところもあるが、心配なのは、そうでない団体や地域に根差した自治会等。2 年後、日本の自治会数が半分になってもおかしくないのではないかな。コロナ禍のため自治会が回覧版を回さないように、行政からの情報発信を止めている自治体もあるが、これは無責任だと思っている。こういったコロナ禍で、地域の情報を得ることができない情報弱者がいる。地域の情報共有や活動は、市民の責任にするのではなく、行政が責任を持つとお墨付きを与えて再開させて欲しい。「こういう枠組みなら活動しても構わない。」という「市のガイドライン」があれば、自治会や団体は動くことができる。多様な価値観の中で「市のガイドライン」によって状況を変えていく。普段はリスクを取らない行政であるが、この状況ではリスクを取って欲しい。取り残されている地域の人、来年から活動を止めようと考えている団体に対してどうやって支援をしていくかを考える必要がある。

7 その他

【粉川会長】 次第 7 のその他について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】 資料 8 を用いて協働事業提案制度の変更点について説明をしていきたい。～資料説明～

わこらぼ（協働推進センター）の令和元年度実績事業について説明をしていきたい。～資料説明～

■事務局から連絡

- 9月11日（金）までに、評価シートを事務局まで提出する。
- 今年度の懇話会は、第2回を11月、第3回を1月に予定している。
- 次回会議について
 - 第2回協働推進懇話会
 - 日時：令和2年11月11日（水）14：00～16：00
 - 場所：602会議室